

第69回日本木材学会大会（函館）公開シンポジウム

北海道のトドマツを知ろう

トドマツは、北海道で最もポピュラーな針葉樹であり、人工林としての蓄積が最も多く、今後、出材量の増加が見込まれています。本シンポジウムでは、道内におけるトドマツの資源背景、樹種的特性、利用技術開発、民間企業による活用例を、専門の講師を迎えて紹介します。



**参加無料
申込み不要**



2019
3/15(金) 14:30~17:10
函館アリーナ
メインアリーナ
(函館市湯川町1-32-2)

ープログラムー

森林資源としてのトドマツ ー歴史と将来ー

津田高明(道総研林業試験場道南支場)

木材としてのトドマツ

小泉章夫(北海道大学大学院農学研究科)

トドマツ利用の課題と付加価値化に向けた技術開発

中嶋厚(道総研林産試験場)

森林トドマツ利用拡大の取り組みー企業間の連携を基盤としてー

齋藤光久(上川地域水平連携協議会)

「トドマツで、建てる」

ー赤羽の集合住宅と下川町のトドマツオフィス

内海彩((株)内海彩建築設計事務所)



司会: 竹村彰夫
(東京大学・NPO法人才の木)



津田高明



小泉章夫



中嶋厚



齋藤光久



内海彩

主催: 一般社団法人日本木材学会, NPO法人才の木

後援: 北海道, 北海道森林管理局,

北海道森林組合連合会,

北海道木材産業協同組合連合会

お問合せ先: 第69回日本木材学会大会実行委員会 wood2019@jwrs.org

NPO法人才の木 info@sainoki.org

講演者のご紹介

津田高明

【経歴】

2007年 北海道大学大学院農学研究科修了

2007～2011年 株式会社ドーコン 環境アセスメント等の業務に従事

2011年～ (地独)北海道立総合研究機構林業試験場

林業試験場道南支場研究主任：森林経営の分野を専門とし、北海道の人工林資源予測、施業計画の最適化手法、林内路網の管理方法、原木の流通状況の調査を行っている。

【講演について】

トドマツは北海道の郷土種であり、古くから天然林施業が行われてきた。また人工林面積は約77万haと、北海道で最も大きい面積を占める造林樹種である。現在トドマツ人工林の63%が9齢級以降に集中している一方、5齢級以前の若齢林は1割程度と少ない状況にある。以上を踏まえ、本講演ではトドマツの持続的な利用の可能性を検討するため、資源利用としての歴史、遺伝的背景を踏まえた造林の歴史、資源の現況と将来予測を紹介する。

小泉章夫

【経歴】

1955年 京都市生まれ

1981年 北海道大学農学部林産学科卒業

1987年 北海道教育大学札幌校 助手

1995年 秋田県立農業短期大学付属木材高度加工研究所 助教授

2000年 北海道大学大学院農学研究科 助教授

北海道大学大学院農学研究科教授：針葉樹造林木の材質評価、木質構造部材の接合法の開発、緑化木の耐風性評価などの研究に従事

【講演について】

北海道の主力造林樹種の一つであるトドマツについて、強度特性を中心とする物理的な性質をスギやカラマツなどの造林樹種と比較し、トドマツ材の利用特性について考えてみたい。

中畠厚

【経歴】

1983年 山形大学農学部林学科卒業

1983年～ 北海道立林産試験場 (2010年～ (地独)北海道立総合研究機構林産試験場)

2015年～ (地独)北海道立総合研究機構林産試験場技術部長

林産試験場技術部部長：木材加工分野の製材・乾燥技術にかかる研究開発に従事。木材乾燥の省エネルギー化、蒸気式乾燥の自動制御・タイムスケジュール、カラマツによる構造材開発(コアドライ)など手掛ける。

【講演について】

トドマツ用途のおおよそ半分は製材で、割材や板類にした建築用羽柄材や型枠用積木など比較的小サイズの製材利用が主流となっています。これらはトドマツの材質特性を踏まえた利用方向のひとつですが、林産試験場では加工上の技術課題を明らかにしながら付加価値向上を目指し種々の建材開発に取り組んでいるので、途中経過を含め開発事例を二三紹介します。

齋藤光久

【経歴】

1958年 旭川生まれ

1978年～ (株)齊藤工業所入社

(株)齊藤工業所専務取締役、(一社)北海道林産技術普及協会副会長、旭川地方木材協会副会長：地酒をこよなく愛する4児の父。足かけ10年、「木材に関するお客様のSOSを解決します」をキーワードにブログ(<http://saitozaimoku.blog112.fc2.com/>)を綴っている。

【講演について】

「上川地域水平連携協議会」とは、トドマツの活用に取り組む、北海道道央～道北地域で素材生産、製材、プレカット、住宅建設および家具製造を営む企業8社の連携体である。統一ブランド<夢来(むく)>を冠した構造材や床材の開発・提案をはじめ、家具・建具の開発、アロマオイルの体験会、普及資料の作成、住宅見学会の実施、さらにホームセンター向け流通ルートの開拓などを平成21年から行ってきた。その一端を紹介する。

内海彩

【経歴】

1994年 東京大学工学部建築学科卒業

1994年～ 山本理顕設計工場勤務

2002年～ KUS一級建築士事務所設立・共同主宰

2017年～ 内海彩建築設計事務所に改称

(株)内海彩建築設計事務所代表取締役、NPO法人チーム・ティンバライズ理事、東京電機大学、芝浦工業大学、前橋工科大学 非常勤講師、高知県立林業大学校特別教授

【講演について】

北海道のトドマツを使ったふたつのプロジェクト「赤羽の集合住宅」と「下川町のトドマツオフィス」についてお話しします。また、そこで感じたトドマツの魅力や設計者からみた課題、道外での活用の可能性について、考えてみたいと思います。